

---

# **シュンとなつみの物語 バーチャルな恋 実話 完結編**

りこりすの華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シュンとなつみの物語 バーチャルな恋 実話 完結編

### 【Zコード】

Z2372D

### 【作者名】

りこりすの華

### 【あらすじ】

パソコンを通じて知り合った2人の大学生。出会ったタイミングは2人とも心に傷を負った状態だった。意気投合し、恋に発展…しかし…。この実話の物語、あなたは信じられますか？

## (前書き)

シユンとなつみの物語、バーチャルな恋、実話。バーチャルな恋、その後、なつみの慟哭。バーチャルな恋、なつみの *lingering attachment* (未練)。バーチャルな恋、なつみの胸キュン。に続く完結編です。

—今までのあらすじ—

シュンとなつみはパソコンのゲームで知り合い、意気投合。シュンは愛する彼女と

別れたばかり、なつみは、彼に裏切られた形で別れる寸前。そんな時に偶然

出会った2人。2007年、夏のことだった。出会ってから毎日のようにメール、

チャット、2人は恋におちていった。なつみは20歳、シュンは21歳、お互い

大学生、なつみは大阪、シュンは東京、離れていても2人は傷ついた心を慰め合った

もちろんパソコンを通じて・・・。なつみが旅行先の小浜の空で星を数え、シュンは

東京の空の星を数え、同じ星を見ているね。と言つたつけ。シュンが教えてくれた

1970年代の名曲、22才の別れ。そして偶然公開された「22才の別れ」の曲

をモチーフにした映画、シュンは東京で、なつみは大阪で同じ日に観に行つたね。

2人とも号泣したよね。

シユンはなつみより1つ上なだけなのにとても大人の

考えを持つてたね。お互い会わないと約束しちゃったね。シユンは元カノへの想い

が大きすぎ、そこに現れたなつみ。シユンにはそんなに背負いきれない・・・今の

シユンは人を愛する資格がないんだ。だからなつみには、シユンよりももつといい人

を見つけて幸せになつてほしいと言つてたね。なつみは泣いたよ。だつてシユンが

好き、大好きだもん。いまのなつみにそんなの無理だよ。なつみはどんどんシユンが

好きになつていいくの。会わない約束するんじゃなかつた。シユンに会いたい、今すぐ

会いたい、会つて抱きついてキスしたい・・・。でももう遅いんだよね、シユンは

意志が強くて筋が通つた性格。今さら約束撤回なんてしてくれないの分かつてゐる。そんな

シユンの性格もなつみは大好きだつたよ。なつみの片思いだつたかもしれないけれど

なつみはシユンに出来て本当によかつた。涙が溢れるくらいよかつた。

2人はどれだけチャットをしただらう、どれだけメールをしただらう、メールで

いつも素敵な詩を書いてくれたね。なつみを気遣つて。嬉しかったよ。癒されたよ。

ほんとに優しいシユン、あなたを想つてどれだけ泣いたか・・・。  
なつみは「メモを送り

優しいシユンも送ってくれた。シユン、なつみの思い通り素敵なかたちだつたよ。なつみは

プリントアウトして宝物にしたんだよ。シユン、シユン、シユン、  
大好きよ。

## 本文一

それから月日が経ち、大学も始まり、忙しい毎日だった。学校に、  
レポート提出、

バイトに、遊び・・・もちろん時々送られてくるシユンからのメール嬉しくて

嬉しくてメール、開くのドキドキしたよ。大好きなシユン、愛しのシユン、メールが

来てたら深呼吸して、開いてたつけ。何度も何度も読み返し、涙を流し返信したな。

学校の行き帰りも独りになつてシユンを想うとたまなくなつて涙が溢れ、人前構わず

泣いたんだ。シユンに会いたい、会いたい、会つて抱きしめてほしい、何度そう思った

ことか。優しいシユン、そんななつみを気遣つてメール続けてくれてたね。ありがとう。

シユン、あなたは本当に素敵な人、想えば想つほどなつみを辛くさせて、罪なやつ。

でもねなつみは、人をこんなに愛することは初めてだつたな。シユンも辛いのになつみを

気遣つてメールくれた。励ましてくれた。そして我儘ななつみはシユンを困らせてばかり

だつたね。でも、ごめんね、シユン。なつみは、とても大事なことをシユンに隠してたんだ。

これは家族と学校の先生にしか言つてない、親友にも隠したこと。  
なつみはね、血液の

癌、白血病だつたんだ。発症したのは、高2の7月。体がすぐだ  
るい、口内炎が治らない

疲れやすい、鼻血がでやすい、近くの大学病院で血液検査して、脾  
臓がはれてる、そう、

白血病だと宣告された。緊急入院して数か月の辛い治療で、ほんと  
に辛かつたけれど頑張  
つてなんとか退院できただんだ。骨髄移植だつて家族は白血球の型が  
合わず、ドナーも

なかなか見つからない、それでも外来で定期的に検査して薬も飲ん  
で、高2で遅れた勉強も

頑張つて大学合格。人一倍嬉しかった。なつみは恋をしたら一途だ  
から初恋の人をずつと

想つてて、恋がなかなかできなかつた。初めて付き合つた彼に裏切  
られ、傷心のところに

現れたシウン、話せば話すほどなつみはシウンを好きになつたよ。  
純粹なシウン、優しい

シウン、時には怒つてくれたシウン、頑固だけど軟派なところもあ  
るシウン、大人のシウン、

素敵なシユン。なつみはね、シユンの元カノへの想いには勝てないと分つていながら、

シユンは俺を好きにならないでくれ、と言われてたけど、好きで好きでどうしようもなくて

毎日毎日シユンが教えてくれた22才の別れ聴いて泣いてたよ。そして10月1日、いつもの

様に外来受診、血液検査の結果に先生の顔の表情が少し曇った。「2週間後、お父さんと一緒に

に受診するよ」と言われたんだ。なつみはピソときたよ、再発したんだ、と。2週間後に

受診、骨髄穿刺という検査、お父さんだけ呼ばれて主治医の先生と話をしてた。お父さんは

多くを語ってくれなかつた。教えてくれたのは、また入院して辛い治療をしなければいけない

事。なつみはね、もうわかつちゃつた。発症して3年で再発。急性骨髄性白血病。親友にも

隠してる。でも、愛するシユンに伝えたかった。なつみはもう永くないかもしれないって。

シユンは驚いて時には怒り、時には優しく励ましてくれたね。毎日星空にわたしの病気が治る

様にお祈りをしてくれたね。メールの回数も増やしてくれたね。嬉しかった。号泣したよ。

大好きなシユン、なつみは片想いだつたけれど、なつみのCDシユンに忘れてほしくなくて

入院までの間にシユンへの贈り物を作ったんだ。なつみのお気に入りのCD3枚。思い出の小浜

で拾つた貝殻を入れた入れ物にメッセージをそえて・・・。そしていよいよ11月17日に

入院が決まった。ひそかに買ったノートに毎日シユンへ日記を書き始めた。そしてシユンに

メール、「11月17日に入院が決まったよ、なつみ絶対治療に耐えて頑張るから、シユン、

シユンの声が聞きたいよ。毎日それを聴いて頑張るから、シユン、声を録音して送つて下さい

」でもシユンの考えは違つた、入院の5日前、「速達で送るよ。さつきが頑張れるように・・

・でも残念ながらシユンの声ではありません。ただのお守りを「ちよつとがっかりしたけれど

シユンからの贈り物だつたらなつみはなんでも宝物にするよ。そして次の日学校から急いで

帰ると、ニヤニヤしたお母さん。届いたよ。はい、これ。見ると、小さな白い封筒、男の人

とは思えないきれいな字でなつみの住所と名前が書かれていた。差出人のところには、シュン

とだけ書かれていて住所は空欄だった。でも消印が大崎となっていた。てことは？なつみ、PC

で調べちゃった。品川区の大崎郵便局から送ったんだって。ふつくら膨らんだ白い封筒、お守

りって言ってたよね。大事に切り取り開けてみると、ん？ずいぶん小さなお守り。しかも何も

書いてなく、巾着袋みたいになってる。あ、分かった、5円玉のお守り？中を見ると、え・

?指輪…銀色で、真中にダイヤ?分かんないけど石がついててテザインもセンスのいいシンプル

ルなもの。早速はめてみた、左の中指に一番ぴったり。嬉しかったよ。手紙も添えてあつた、

「なつみ、こんにちは しばらくシュンのメール読めないね メールの代わりに 指輪を贈る

ね なつみのそばに いつも居るや 幻のシュンだけど 淋しくないだろう。だからガンバロ

「一 応援してる なつみ ひとりじゃないよ・・・。 シュン」  
なつみは涙が次から次へ

と溢れ 泣きじゃべったよ。ありがと、シュン優しいシュン、や  
っぱりなつみはシュンが

好き。指輪をつけながら撫でながらなつみは思つた。この指輪をして  
て今回の入院乗り切るよ。

絶対退院して、一番にシュンに報告するね。それからも日記を書き  
続けた、もちろん指輪の

お礼も書いて、でも、シュン、シュンの住所がわからんないよ、シ  
ュンへの贈り物のひとつと思いつ出

の貝殻 いの田記、シュンに送りたいのに送れないよ。確かにシ  
ュンはお返しはいらない、と

言つてたけれど、なつみはびっくりしても渡したいんだ。

いよいよ入院の日が来た。もう二回田だから慣れてる。個室に入れ  
てよかつたよ。だってなつ

みの親類はおしゃべりな人が多いから、お見舞いに来てくれるのは  
嬉しいけれど、同室の患者

さんにも迷惑かけちゃう。お母さんと一緒に荷物の整理、なつみのお  
気に入りのものは最小限に

して持つてきた。それらを飾つて、もちろん、シユンからのお守りは左手の中指に光つてゐる。

シユンの書いたきれいな字の封筒と手紙、そしてシユンの写真。いつでも見られるように枕元

に置いたんだ。そして血液検査から骨髄検査、辛い検査もそうでないのも一通りやつた。鎖骨

下静脈に管をいれて24時間点滴するの。だからトライレ行くのも何処へいくのも点滴棒持つて

行くから大変なんだ。お昼にお母さんが帰つて行つた。個室に独り。窓からは青空が見える。

てことは、夜には星空見えるよね。なつみは空が大好きだから、特に夜空の星と月は大好きだ

からよかつた。毎日早く退院できますようにお祈りしちゃう。早速その日の夕方から抗がん剤

の点滴開始。副作用出るかもしれないけどがんばろうね。と、なつみの主治医は他にもいる

けど主にこの女医さんがついてくれた。なつみは持つてきた本を読んだり、iPadで音楽聴い

たりして大半を過ごした。親友にも隠してゐるこの病気。だから友達はお見舞いに来ない。来る

のは、おしゃべりな親戚と家族くらいかな。同じ病気の1つ上の子とも友達になれて話し相手

ができた。そういうしていふうちに日が経ち、気持では負けなかつたつもりが抗がん剤の副作用

作用で、吐き気が出てきて御飯が食べられなくなつていった。負けない、負けない、絶対負け

ない。悔しくて涙が出る。でもがんばるよ。シュンと約束したんだもん。12月には退院する

つて。だからなつみは頑張るんだ・・・。でも・・・入院から5日目だつたか?思いの外、抗

癌剤が効きすぎてか、白血球が下がりすぎ、抗生素質の注射が増え、とうとうクリーンルーム

になつてしまつた。お母さんにPCRのHDLとパスワードを教え、携帯も渡してシュンとなつみの伝

言役になつてもらつた。先生の指示通り、うがいは欠かさず、食事もできるだけ食べ、頑張つ

たのに・・・23日位から熱が出てきてしまつた。寒い・・・部屋からの外出ももちろん禁止

熱はどんどん上がり始め、ナースや先生が入れ替わり立ち替わり入ってきて、一生懸命治療しつつ

てくれた。注射の量も増えていき、独りになると夜になると不安になつて・・・星空にベッド

からお祈りしてた。自然と涙が溢れ、負けない・・・負けないって思つてた。お母さんがお見

舞いで教えてくれた、シュンから珍しく携帯にメールが来たよつて。  
「なつみ！元気？クリー

ンルームで治療？辛いだろうけどもつすぐれー・PC壊れちゃつて、  
メールできなくて」ごめん！友

達のPC借りたけど、明朝、10時に返さないといけない。なつみ、  
シュンが応援してるから、

なつみも辛いだろうけど乗り切ろうね。今日も星に祈りをしたよ。  
「なつみがあまりに泣くも

のだからお母さんまで一緒に泣いてシュンがくれた指輪を握りしめ、  
2人で頑張ろうって号泣

したんだ。でも・・・熱は下がらず39度、40度、どんどん上がり、息も苦しくなつてきた

最後のちからを振り絞り、シュンに日記は書きたい、そつ思つて震  
える手を押さえながら一生

懸命書いたんだ。それからなつみは意識がもつひとつしてきてた・・・  
。24日のことだった。

なつみ・・・11月27日22時05分・・・逝去。

そうです。私は、なつみの母親です。なつみがまだ元気に会話してた頃、なつみにもしもの

事があつたら「シュンとなつみの物語、完結編を書いてほしい」と頼まれました。私となつみ

は親子というより姉妹の様な関係で何でも話してくれていたなつみ、もちろんこの物語を投稿

していることも知っていました。だから今約束を果たすべく、涙を流しながら、これを書いて

います。なつみはシュン君のこともよく聞かせてくれ、大好きなシンコン・・・と言つていつも

はにかみながらも田がキラキラと輝いていました。私はそれを聞きながら自分のことの様に、

時に、なつみと笑い、時に、一緒に涙を流していました。なつみはシュン君を心から愛していました。

ました。私にはそれが痛いほど伝わってきました。でも親としてど

「うじてやね」ともやが。  
・

・・「うじて最後のなつみの頼みを叶えてやっています。物語には  
続きがあります。

11月26日、そつ、なつみが旅立つ前の日、ション類からのメー  
ル「なつみー」んにちりばー

なつみが入院してからずつーといいお天氣が続いています。ちよつ  
と寒いけど快晴！クリーン

ルームだと氣候がわからないだろう。秋から急に冬が来た感じ・・・  
。治療の薬とか点滴とか

で辛いんだろうね。副作用で食欲もないんだろ？・・・。身体もだ  
るかつたり、熱とかあるん

じゃない・・・でも、じぱりべの辛抱だからね、乗り切らうね。

私は一本のうじてやくになりたい  
ひとつまうちつてさ  
みしいネ

もしいつか、あなたの心が  
ひとつまうちつて  
かなしいネ

真っ暗になつたとき

てほんとこつりこみ

ひとつまつり

あなたのかたすみで

つかつてすべく自由だよ

でもひとつま

オレンジいろの

それになんだか

なつかしい匂いがして

あかりをかかげて

時々口々口が

あつーくなるんだー

たつていたい

こつでもこつでも

私はあなたのことを

「 小さな恋

のものがたりよつ

想つてこます

月ももつすぐ満月になるよ。カツレツ思ひこんだ。びつくつするべ  
らい。同じ星を見るかな

?早くクリーンルーム出れると良くな。 じゃ、またね

「 シュン

そのこんなつみは意識がもつれりとしてるなか、家族全員に両手を  
握られて、こう言いました

「わざのようでしたか……」「みんな」めんね、ありがと……お母さん、ショントコと小

浜の皿殻、机の上にあるから……渡して」これがあの子の最期の言葉となりました。それから丸

「田あの子は生きようと、生きようと頑張りました……でも最期、主治医の女医さんが泣きなが

らしてくれた心臓マッサージの甲斐もなく、私達のもとから旅立つて行つてしましました。な

つみは明るく、いつも笑顔を絶やわず、みんなに愛され友達も多い、やんけで危なっかしい

といいのがあつたけれど、私達にとって生き甲斐でした。可愛いで嫁さん姿、いや田前に控えた

成人式の晴れ姿さえ見せてくれることなく、去つて行つてしましました。そうだ……ション君に

報告しないことと思つて、哀しくお知らせをしました。そしてなつみがション君に渡してほしいこと

言つていたことも。なつみの荷物を整理していたら出てきました枕の下からション君にあてた

田記…これは何が何でも渡してやるわ、そう決意した私は12月2日になつみが言つていた。

シユンは品川区の大崎駅の近くに住んでる、ヤシで調べ、待ち合わせ場所を決め待っています。と

メールしました。シユン君の返事はこうでした「お母様、え、どうして…？本当なの…？あん

なに元気だったじゃない。ウンだらつ。信じられない…。申し訳ございません 言葉が見つか

りません 謹んで」「冥福を申し上げます。なつみー本当によならなんだね。なつみ！あり

がとう。夏に出会って以来メール以上にチャットでいろいろ話したね。楽しかった。1日に2

時間も3時間も…。なつみはおしゃべりで…3か月あまりの付き合いなのにケンカしたり、泣

いたり、喜んだり、お互に本音で話せて幸せだった。なつみのことは忘れないよ。なつみは、

シユンの頑固で信念を貫くところが好きだと言つてくれました。一度言つた事は変えないこと

承知しています。なつみは世話好きで最後まで自分を想つてくれたのだろう。自分が元気にな

つて欲しいと…。最後のメッセージ（手紙）渡しそびれたプレゼント…そんななつみの気持ちく

らい俺にさわかむか…。お母様、なつみの最後の言葉には続きがあります。渡して…でも

シユンは受け取らないよ。あいつは頑固者だから…だから…いこよ。シユンの思い通りにして

欲しい…。お母様、もう許して下さご。幻のシユンで終わらなければあまりにも後悔が多く

きます。なつみにも自分の意志を伝えておきます。もう嘘偽りないと  
ができる…。自分の中に

はなつみが永遠にいます。シユン、なにしてるの?元氣出して…シ  
ュン、早く彼女見つけて!

シユン、幸せになつてね…シユン…いつも話しかけてくれます。な  
つみは空になつて見守つて

くれてるんです。お母様、ですから…は東京に来ないで下さ  
い。自分は行きません。意志

は変わりません(中略)なつみ、自分は最後のお別れにも行けず」  
めんなさい。東京でひとりで

なつみを送ります。シユンはなつみの望み通り、立ち直つて幸せになつます。なつみーシユン

を好きになつてくれてありがとう。俺はなつみに会つたかった。好きだつた。愛してたんだ。

そして、さよなら…メールアドレスも閉じます。もう連絡が取れなくなりますがお母様も御

身体を大切にしてください。自分勝手なこと、許して下さい。さようなら　幻のシュン」

このメールを見て私は驚き、泣き崩れてしまいました。なつみの想いを叶えなければ、なつみ

が一生懸命作った愛するシュン君への贈り物、渡さなければ。幸いシュン君のアドレスが

まだ閉じてなかつたので号泣しながら待ち合わせ場所に来てくれるることを何度も何度も頼みま

した。なつみの姉も、義理の兄も、そして主人も泣きながら必死にメールで来て下さいと頼み

ました。ところが次の日どうか来ないでくださいとシュン君からメールがありアドレスが閉じ

られてしましました。私は、何も手に付かず、家族全員で悲しみました。でも母として、たと

えシュン君が来なかつたとしても私は行くことに決めたのです。なつみがひそかに綴つていた

病室での日記、かわい入れ物に入つたメッセージが添えてある、2人の想い出の小浜で拾つた

貝殻、CD、やんちゃ娘にまつすぐ向き合ってくれたシユン君へ、  
私からのプレゼントとして

マフラーを入れ、大切に持つて12／2早朝から出掛けに行きました。駅に向かう途中で涙が

とめどもなく溢れ、人もまばらな電車の中でひとり涙をぬぐっていました。4時間ほどで待ち

合わせ場所に到着。時間もぴったり。でもシユン君らしき青年は見当たらず、2時間待つて

現われなかつたら諦めようと決め待ち続けました。すると…一人の、歳は私くらいか少し上で

しうが、足早に男性が現れました、そして私に近づき名前を尋ね、私が「はい」と答える

と「シユンとなつみの物語…」とおっしゃいました。分かりました、シユン君のお父様だと…

私が「お父様ですか?」と尋ねると「本人は泣くばかりで何も聞かない約束で受け取るもの

受け取つてきてほしいと頼まれまして」とおっしゃり、私は号泣しながら簡単に説明しシユン

君に渡して下せことなつみの贈り物を手渡しました。私が大阪から来たことに驚き、そして

「本人に連絡を取るより」こいつますから、なつみさんの「冥福をお祈りいたします。」とおつ

しゃって下さり一礼をして行かれました。私は、暫くそこには何んみ、涙が止まらず、なつみに渡

せたよと何度もつぶやき、シュン君あつがとうと何度もお礼をし時間も忘れて泣きました。

そこからしばらくして家に着いたか分からぬほど嬉しそうになつみの遺影に報告しパソコンを

開いてみるとシュン君からのメールが届いてました。初めはお父様でじょう「本日は遠いとこ

る」足労お掛けしました。事情も知らず、お目にかけてしまった事、お詫びいたします。シュー

ンからは何も聞かず、語らずの約束で、渡されたものを受け取つてほしいと涙をながしながら

申していたので私も何も聞かずにお会いしてしまいました。本人もお会いするのが辛かつたの

でしょう。察してやつて下さい。シュンにはお預かりしたもの渡しましたので安心ください

なつみさんの「冥福をお祈りいたします。」「お母様　なつみの田記、CDいただきました

まだ読めませんが気持の整理ができましたらまたメールします。今 日は、ありがとうございました

した シュン」 なつみは 世界の中心で愛をさがぶ のドラマ 版が大好きでした。ヒロイン

が自分と同じ病気だったからでしょう。DVDを大切にしていました。入院中「もしなつみが死ん

だらせ力中みたいにな、シュンとの恋に出の小浜の海辺で空に向って散骨してな」と言いつてい

ました。私達は、あのドラマの様に小さな小瓶に入れて落ち着いた  
ら散骨してやるつもりです

12／2のメールからじめりくしてシュン君から長いメールが届きました。「お母様！」と泣いて

はー先日はわざわざ大阪からおこでいただいたのに会う事拒んでしまいました、お母様

の顔を見たら号泣してしまったことでしょう。昨日の朝、同じ家族からいただいたメールを読み

それでも迷っていました。父は何も聞かず黙つて行つてくれました。  
戻つて来たときは、驚い

ていましたが、お預かりしたもの渡してくれました。お母様には失礼なことをしてしまった

言つてました。なつみさんの貴重な宝物頂きました。あ母さん、これは本当にことなのでしょうか？自分には何が何だかわかりません。会つたこともないのに、たった3か月のメールや

チャットで話しただけで…現実離れした、ドラマの様な物語…夢でも見ているような…自分はなつみさんの病気の事も知らず、冷たい態度ばかりで接していました。それなのになつみさんは一生懸命自分を励ましてくれました。自分はなつみさんは好きになる事を恐れ、離れよう別れようとばかり考えていました…。それでもなつみさんは自分の病状が悪い事を感じたの

でしょう。私が生きるうちに…信じられない言葉が書かれていました。もちろん自分はそんな

なこと信じられない、信じたくないでの、突き放した言葉を言つてしましました。もっと優しく

い言葉を掛けてあげればよかつたのに…。本当は気付いていたんだ。自分はなつみさんが好き

な事に…。でも中途半端な自分ではなつみさんに悪いと思つてしましました。思い出が少ない

方が傷が浅く済むと思い、そつと消えようと考えていた…。必死の想いでシュンを最後の恋と

言つてくれていたのに…。なつみは音楽がすきだったなあ、最後のなつみが作ってくれた3

枚のCD ああ…本当はデータして手をつないでショッピングしたり、映画を観たり…なつみが

作ってくれたお弁当を公園のベンチで2人並んでたべたかったなあ。なつみの好きなコンサー

トだつて付き合つてあげるよ…クリスマスだつて、誕生日だつてプレゼントあげたいのに…

もつともつとなつみと話したかった、抱きしめたかった…。なつみさんの日記読みました。

検査結果を聞いた翌日から始まり、11月24日まで最後の力のかぎり震える手で綴られて

いました。17日に入院してたつたの11日で

「11月24日（土）晴れ、AM7：02 大好きなシュンへ シュン、どうも昨日までと体が

違つ。息がくるしい卅。血中の酸素が足りないって。昨日は当直の先生をずいぶんてこずらし

ちやつた。“じめんなさい。酸素マスクしてるπ。シヨン…、私はどうも行かなくちゃいけない

みたい。私はね、空になるよ。晴れの日は真っ青な青空。曇りの田せつワフワフワした雲を

西手こいつぱに広げた空に。雨の日は地球の草花に栄養を下さる水をもたらす大空に。雪の日は

寒さにじりえながら真っ白な雪を降らす空に。夜は、星と月がきらめくステキな夜空に。シロ

ン辛い時、困ったとき、どうしようもない時、そんな時は、空を見上げてじりえ。こつも私が

見守つてあげるπ。大好きな家族、友、そしてシユン。私がいつも守つてあげるπ。シユンが

幸せになれます様に、いや必ず幸せになつて下さい。私の分も。シユン、大好きでした。あり

がとう。そして、“じめんなさい。なつみ” 最後のページに”22才の別れ”の8／22の映画

のキップの半券が貼つてありました。（中略）なつみ、俺はやつぱり辛くて悲しい。涙が止まり

ないんだ。涙をじりえると声が出て嗚咽になつてしまつ…。田を開じても涙が溢れてくるん

だ。どうすれば止まるの？なつみが空になつてからいつも真っ青な空。なつみ・ショウを見て

笑つてるの？なつみ！なつみ！俺の方こそ謝らないといけないね、ごめんなさい。（中略）

8／12だったね。なつみが家族旅行で小浜の海へ、ひとりホテルに残つてメールしてきただね。

なつみの失恋をいやす旅行だつたね。そしてなつみは小浜の星にシンコーンは東京の夜空に祈つた

ね…あの時になつみの想いが分かつたんだ…。なつみからもらつた貝殻…なんだか懐かしい氣

がするよ。なつみが海岸で拾つてくれたんだね、ありがとう。お母さん、小浜にはもう行か

れたのでしょうか。もし、まだでしたら行く日を教えてください。東京から空を見て黙祷を

ささげたいと思います。（中略）なつみさんのこと語ればお母さんの20年には勝てないけれど

どいつぱいの思い出、素敵な出会いだった。運命だなんて一言でかたづけられないけれど

自分は、悲しくて辛くて。明るいなつみがいなくなつてしまつた。でもなつみが最後まで頑張

つてくれたように自分も頑張ります。辛くとも悲しくてもなつみが見守ってくれるから平氣で

す。なつみの想い一生忘れません。なつみ！なつみの分まで幸せになります。見守って下さい

なつみ！ありがとう。」私はこのシユン君からのメールを読みながら声をあげて泣きました

早速、今にも「おかーさん」と語りかけてきそうななつみの遺影にシユン君からのメールの

内容を報告すると、なつみが、一瞬笑ったように見え、「シユーンありがと。」と聞こえたよ

気がしました。私は泣き崩れ、「なつみ、よかつたね。」と語りかけました。なつみは、

天国で幸せ気分にひたっていると思います。シユン君、ありがとうございます。私達は、まだなつみの

死を受け入れられなくて、いつものように「ただいま」と叫ぶく リビングに入つて来そうで

ついついなつみが愛用していたお茶碗とお箸を用意してしまったり。なつみの部屋に行くと

なつみが居そりで、いつものように「もう、ノックしてよ」って怒られそうで…。なつみの

部屋は永遠にそのままにしておきます。今となつては形見となつてしまつたシュン君からもう

つた指輪、手紙、そして大切にしてたDVD、沢山のCD、お気に入りだった服、バック

特に料理が得意だったなつみが書いた料理のレシピ、なつみの匂いでいっぱいです。あれから

一日として泣かなかつた日はありません。できることなら代わってやりたかった。たつた20

年、これからといふのに急いで明るく駆け抜けて逝つてしまつたなつみ。いつもなつみが私に

言います「お母さん、もうそんなに泣かないで」って。そうですね。私達は、なつみに癒され

続けてきた分、残りの人生をなつみに恥じないよう生きていきます。これは本当に実話です。

シュン君にも承諾を得て、ぜひ書いてほしいと言つてくれたので私は、涙をこらえながら、執

筆しました。なつみも天国で喜んでいることでしょう。読んで下さった皆さん、ありがとうございました

ざいました。そして・・・シュン君・・・本当にありがとうございます。

E  
N  
D

(後書き)

読んで下さりありがとうございました。あの子がいなくなつてから  
どれだけの涙を流したことでしょう。この切なくて悲しい物語、泣  
きながら書きました。なつみも喜んでることでしょう。有難うござ  
いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2372d/>

---

シュンとなつみの物語 バーチャルな恋 実話 完結編

2010年12月29日23時33分発行